

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500328		
法人名	株式会社 ジョウジマ		
事業所名	グループホームふるさと伊万里		
所在地	佐賀県伊万里市南波多町大川原4224-1		
自己評価作成日	令和4年8月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和4年10月25日	外部評価確定日	令和4年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症になられても、のどかな地域の中で豊かな自然と温かい地域の皆様の協力を得ながら心穏やかに過ごされています。四季折々の風景、旬の食材を使った馴染みの料理が利用者様の笑顔になっています。毎日の生活を自分のペースで過ごして頂きながら、お元気な方には日常のお手伝いをして頂き職員と一緒に生活されています。現在は感染症対策の為面会や外出も困難な状態ですが、ホーム内を自由に動いたり園庭の花や周囲の風景に季節を感じながら過ごして頂いています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>長閑な田園風景の中に建つ事業所である。地域に溶け込み、地域の一員として利用者と共に暮らしている。協力医が認知症の専門医であることは心強く、終の棲家にと想いを定める利用者・家族もある。離職者が少ないのも特長で、職員向けアンケートが活かされ、自由に発言できる職場環境であると実感できている。誕生日のプレゼント制度は、日頃の職員の貢献に応えたものであり、モチベーションは上がる。また残存能力の維持に努めることで、介護は近道のない毎日の積み重ねであると証明している。毎日の申し送り朝礼が敷地内の事業所合同であることも他部署の様子が分かり、急に職員の応援が必要な場合でも対応可能となっている。</p>
--

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、事業所の理念と基本方針、今年度のスローガン・介護目標・認知症介護の原則・行動基準(クレド)、職場の教養を唱和し職員間の意識の共有に努め実践に取り組んでいる。	毎朝の申し送り時に、事業所の理念と基本方針を唱和している。今年度のスローガン・介護目標・認知症介護の原則・行動基準(クレド)と、職場の教養を唱和をする事で、職員間で共有し合い、実践に取り組んでいる。	別棟で行う朝礼には敷地内にある小規模多機能事業所も含み、理念を始めとしたいくつかの唱和を行うことで意識付けを図っている。その中には、クレドという職員がどう行動すべきかを具体的に示したものもある。常に立ち戻る原点に理念があり、職員は日々これらを実践している。利用者を制するのではなく、自由な行動を見守る姿勢には「そのひとらしく生きていただく」という基本が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶を積極的に行っている。地域組織の訪問やボランティアの受け入れを行い交流を図っているが、現在は感染症対策の為に中止をしている。	通常は、老人会や民生委員・小中学校・保育園の訪問やボランティアを受け入れ交流を図っている。今のところ感染症対策の為に中止している。	自治会への加入や業者に依頼する(地区の清掃活動日に職員を出せないため)周辺の草払い等は例年通りである。近隣住民と顔を合わせれば挨拶も交わっている。しかしコロナ禍では、家族の面会や地域の方々の訪問も規制を余儀なくされている。事業所は、これまで築いてきた地域との繋がりを保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中学校の職場体験の受け入れを行い交流を図り施設への理解を得ている。地域の方の訪問や他施設からの見学、研修にも対応している。現在は感染症対策の為に困難な状態である。	小・中学校の職場体験の受け入れをしており、福祉と直接関わる場を設けている。また、他機関や施設からの研修や見学にも対応している。今の時点では、感染症対策の面から困難である。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議を開催し、事業所の現状や活動について報告をしている。利用者様の利用状況についても説明をしている。また、年2回の防火訓練にも参加して頂き、気づきや意見、助言を頂いている。	年6回開催し、事業所の活動や取り組み・利用者様の現状について報告している。会議では、地域の方や家族様より、貴重な意見や情報を提供して頂いている。	会議は18時から、通常であれば一時間ほどを要していたが、コロナ禍を考慮し時間短縮を優先している。理解と支援を得る機会にもなるよう、敬老会などの行事と同日開催をすることもあったが現状では難しい。会議では簡潔な進行を心掛けながらも、事業所からの報告のみではなく、双方向なやり取りとなるよう努めている。メンバーからは、ゴミ出しに関して地域に根付いていればこそその指摘が出たこともある。自己評価では、運営推進会議を通して地域との繋がりが深まりは増えていると答えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者に参加して頂き、事業所への意見や市の情報を得ている。市のコミュニティケア会議に参加し、情報の交換を行っている。	運営推進会議には、市の担当者に参加されて事業所に対する意見や情報を得ている。市のコミュニティケア会議に参加し情報の交換を行っている。	担当者は運営推進会議のメンバーでもあり、日頃から顔馴染みである。事業所は大きな法人であり、内部で解決できるだけの人材やスキルもあるが、担当者への問い合わせや確認を疎かにすることはない。ルール変更等は特に慎重に確かめている。実直に対応してもらえる関係は築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会が中心になり、勉強会や現状の把握を行い拘束のないケアに取り組んでいる。3か月ごとのユニット会議でも、利用者様の現状と日々のケアの確認を行っている。状況により拘束が必要な場合は、家族様の同意、必要書類の記入を行い最小限にとどめるように努めている。	身体拘束防止委員会が中心に現状把握と周知徹底する為に勉強会を行っている。安易な拘束に至らないように努め、拘束を生じる場合は、家族様に同意書を頂き、ユニット会議で検討し利用者様の現状と日頃のケアの確認をしている。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は身体拘束の内容やその弊害まで理解しており、定期的な勉強会もある。玄関に施錠はしておらず、チャイムやセンサーの設置もない。職員の目配りや気配りで安全で自由な暮らしを支援している。外へ向かう利用者がいても行動を抑えることはない。言葉の暴力にも敏感である。仮に不適切なケアが見られた場合は、その時に本人と話をし、至った事情を尋ねる、後に全体の事として提起する、申し送りノートへの記入等々が流れとして挙げられる。身体拘束・虐待防止委員会がきちんと機能している点も特長である。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会が中心になり、事業所の虐待防止マニュアルをもとに勉強会を行い防止に努めている。年2回の「虐待の芽アンケート」を実施し、日頃の介護での意識を高め虐待のないケアに取り組んでいる。	2022/11/9		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の資料をスタッフルームに保管し、職員はいつでも見る事が出来る。必要時には支援ができるようにしている。	研修会の資料をスタッフルームに保管し、職員はいつでも見る事ができる。制度を利用されている利用者様もおられ、状況に応じて支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、契約書・重要事項についての説明を行い、疑問や不明瞭な点がないかなど確認を行い理解の上契約をいただいている。	入居時には、契約書、重要事項について説明を行っている。契約において疑問や不明瞭な点がないか確認しながら理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染対策の面から、面会も窓越しで対応するなど直接的な交流が困難な状況であるが、電話連絡時には交流に努めている。	感染対策の面から、面会も窓越しで対応するなど直接的な交流が困難な状況であるが、電話連絡時には交流に努めている。	コロナ禍前には家族が自由に訪れ、職員とも直に話をしながら近況等を知る日常があった。現在は面会もガラス越しである。耳の遠い利用者との間に立ち、伝えながら家族の想いにも気付こうとしている。毎月の請求書送付時にホーム広報誌を同封しているが、なかなか来られない家族には近況報告としても喜ばれている。受診時の結果報告やケアプラン更新時など会話が必要となる機会を大切に、些細な意見であっても耳を傾け、前向きに活かす姿勢が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やユニット会議で意見や提案をしている。出来ることから取り組みがなされている。	スタッフ会議やユニット会議などで積極的に意見や提案した事を業務で生かせるように努め、出来る事から取り組んでいる。	感染症対策の励行は職員の会議にも表れている。各担当による準備は詳細なレジュメとなり配布され、申し送りノート等の活用も相俟って時間短縮を可能にしている。同じ空間に長時間、多数が同席することを避けるための工夫である。日頃から自由に意見も言いやすい職場環境であり、管理者は現場の声に耳を傾けている。経営者側からの職員向けアンケートでは結果を公表し、働きやすい職場となるよう汲み取られた意見もある。また職員の誕生日にはプレゼント制度があり貢献に応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の職能要件チェックシートや毎月のチャレンジシートにより、職員自身の評価をもとに給与への反映がなされている。(研修会への参加(リモート)やバースデー休暇など)	年2回のチェックシートや毎月のチャレンジシートにより職員の自身の確認を行い、給与への反映がなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のスタッフ研修や各種研修会への参加により個人のスキルアップが図れている。感染症対策によりリモートでの研修が主である。	毎月のスタッフ研修や各種研修会への参加により個人のスキルアップが図れている。感染症対策によりリモートでの研修が主である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のコミュニティーケア会議や日本認知症グループホーム協会の研修会への参加により交流が図れるように努めているが、現在は感染症対策の為相互訪問は困難な状況であり研修会のほとんどがリモート対応の状況である。	市のコミュニティーケア会議や日本認知症グループホーム協会の研修会への参加により交流が図れるように努めているが、現在は感染症対策の為相互訪問は困難な状況であり研修会のほとんどがリモート対応の状況である。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学や面談など安心して頂ける様に努めている。家族や本人、ケアマネジャーによる情報をもとに状況の確認を行い、必要なケアが提供できるように努めている。	入居前の見学や面談など話を聞き、安心して頂けるように努めている。家族や本人、ケアマネジャーによる情報を基に状況の確認を行い、必要なケアが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には家族からの要望や現状について詳しく伺い、必要なサービスを提供できるように努めている。笑顔で対応し気軽に声をかけていただけの雰囲気づくりにも努めている。	入居時には、家族からの要望や現状について詳しく伺い、必要なサービスの提供が出来るように努めている。気軽に声を掛けて頂ける雰囲気づくりにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の状況、要望を詳しく伺い必要なサービスを提供している。	家族や本人の状況や要望を詳しく伺い、必要なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、残存機能を生かした役割を持っていただき、スタッフも一緒に取り組む事で、笑顔で生活して頂ける様に支援している。(洗濯物量や食器拭き、テーブル拭きなど)	日常生活の中で、本人様が出来る事を見極め、残存機能を生かした役割を持って頂き、自分らしく生活して頂けるように支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や対応などこまめに連絡している。ケアプラン郵送時には近況の報告や写真を同封している。面会は、感染症対策の為窓越しであるが対応している。その際は状況報告を行い、状態の共有ができるように努めている。	体調の変化など細目の連絡をしている。ケアプラン郵送時には写真と手紙を同封したり、面会時には状況報告を行い、情報の共有が出来るようにしている。今は感染症対策の為、事前に連絡してもらい、窓越しで面会をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や親戚の方など、気持ちよく訪問して頂ける様に努めている。また、居室での談話もゆっくり楽しんで頂ける様にしている。現在は感染症対策の為、窓越しの面会や電話での対応である。	お友達や親戚の方など、気持ちよく訪問して頂ける様に努めている。また、ゆっくりと居室にて談話して頂き、くつろげる環境と雰囲気作りに努めている。今は、感染症対策の為、電話を使用している。	初期対応の中で本人や家族、担当のケアマネジャーからも話を聞き情報を集めている。通常であればそれらを基に具体的な支援が組まれていた。盆正月の帰宅や宿泊、墓参り、家族との外出や外食などである。現状では自粛を余儀なくされる事も多いが、家族の葬儀では、抗原検査キットの活用で出席を可能にした例もある。事業所として出来る事を考え、対策を練り、関係を断ち切らない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットでのレクリエーションやお誕生会、ホーム行事に参加して頂き利用者間の交流が図れるように支援している。食事やソファでの位置にも気を配り、良好な関係が図れるように配慮している。	ホームでの行事やお誕生日会に参加して頂き、利用者間の交流が図れるように支援している。食事やソファでの位置にも気を配り良好な関係が保たれるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたり他施設に移られても、必要な情報が提供できるようにしている。家族の相談にも対応している。亡くなられた時には、通夜・葬儀に参列させていただいている。	退去されたり他施設に移られても、必要な情報の提供が出来るようにしている。また、亡くなられた時には、通夜、葬儀へ参列させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居までの生活を考慮しながら、趣味や楽しまれていたことが継続できるように努めている。日常生活の中で本人の意思を大事にしながら対応している。	これまでの生活を配慮しながら、日常生活の中に出来る事を可能な限り取り入れている。また、本人の意思を大切にしながら、希望に沿って支援をしている。	利用者の想いや、言葉で語れない部分を汲み取るのは、日々の関わりの中からはしか生まれにくい。顔を見て、目線を合わせながらゆっくりと話すことから始まる。一番話をしてくれるのは入浴中の寛いだひとときである。一緒にお茶を飲みながら話し相手をしている時も同様で、利用者の中にはお気に入りの職員を待つ方もいる。聞き取った事は記録され、周知・共有が必要な時には申し送りノートへも併せて記すことになっている。そこからケアプランに反映させた例もある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネジャーの情報をもとに、本人の話を聞きながら、これまでの生活パターンの把握に努めている。入居の場合は馴染みの家具など使って頂き、安心して生活して頂ける様に努めている。	家族やケアマネジャーの情報を基に本人様の話を聞きながら、これまでの生活パターンの把握に努めている。入所の際には、安心して生活して頂けるような環境整備に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個人の24時間の記録をすることで、現状の把握ができるようにしている。本人の言動を記録することで変化に気づき、スタッフの統一した支援が出来るようにしている。	利用者個人の計時記録をすることで、現状の把握が出来るようにしている。また、本人様の言動を記録することで、スタッフの統一した支援が出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議を3か月ごとに行い、担当者のケアプランをスタッフ全員で検討しより良いプランを提供できるようにしている。本人や家族様の意見、要望を伺い反映できるようにしている。利用者様の状況が変化したときは、カンファレンスを行いプランを見直し状況にあったケアプランを作成している。	ユニット会議を3ヶ月ごとに行い、スタッフ全員の意見を基に、担当者がケアプランを作成している。本人様や家族様の意見や要望を伺いながら反映出来るようにしている。利用者様の状況が変化した時には、カンファレンスを行いプランの見直しを行っている。	ケアプランには3か月毎、6か月毎の設定期間があり、その間に変化があれば臨機応変な対応も行っている。家族には日頃から様子を伝えておく事を旨とし、変化があった時の理解にも繋がっている。ユニット内で3か月毎に開く会議は、利用者がよりよく暮らすためのものになっているかを検討するためである。利用者の想いは日々のケアで把握し、家族の要望等は面会時や電話での会話から汲み取っている。残存能力の維持を願う家族は多い。歳を重ねるごとに身体機能の低下は否めない状況にありながら現状では維持が出来る。これは職員の日々のケアの積み重ねに他ならない。また、家族はケアプランについて説明を受け一緒に話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の1日の記録や受診ノート、管理日誌・申し送りノートの活用により、現状の把握と日々の変化に気づくように努めている。スタッフ間で情報を共有し日々の支援や介護計画に生かしている。	個人の1日の記録や受診ノート、管理日誌、申し送りノートの活用により、現状の把握や日々の変化に気づくように努めている。スタッフ間で情報を共有し日々の支援や介護計画に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の体調に応じて必要な病院の受診をしている。月1回の協力病院主治医による往診や眼科の往診で対応している。	月1回、定期的に協力病院主治医により往診をして頂いている。また、体調に応じて必要な病院受診を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小・中学校の職場体験の受け入れや、保育園児・老人会の訪問、公民館祭りへの参加など地域との交流が図れている。現在は、感染症対策の為困難な状況である。	地域の小・中学校の職場体験の受け入れや、保育園児、老人会の訪問、公民館祭りへの参加などで外部との交流が出来ている。現在は、感染症対策により困難な状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の希望を受け入れ、かかりつけ医の受診を継続している。状態の変化によっては、家族様に相談し主治医の変更をしている。また、認知症に関しては家族様に状況を報告、相談し専門医を受診している。	本人、家族様の希望を受け入れ、かかりつけ医の受診を継続している。状態の変化によっては、家族様に相談し主治医の変更をしている。また、認知症に関しては家族様に状況を報告、相談し専門医を受診している。	もともと協力医の患者だった利用者も多く、病歴や処方などを知ってもらっている安心感がある。また、協力医は認知症の専門医であり、月一回の訪問診療も受けられることから、入居後に変更を希望する方もいる。昔からの馴染みの医師の元へ通う方もいて、それぞれが希望するかかりつけ医となっている。受診に出向く場合は職員の付き添いが殆どで、家族は都合が付けば同行している。事業所には利用者毎の受診ノートがあり、きちんと記録しておくことで職員間の共有を図っている。家族への結果報告は異常がなくても当日中に行っており、健康面や医療面での安心につながっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定など、利用者の状態変化の把握に努めている。いつもと違う変化に気づいたら、すぐに看護師に伝え病院受診など必要な対応を取っている。	毎日バイタル測定と状態観察を行い、気づきや異常があれば、看護師へ報告し日常の健康管理に努めている。利用者の状態に応じて病院受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や医療機関との連携を図り、早期退院ができるように対応している。入院中や退院時のカンファレンスにはホームからも参加している。家族様の希望により、医師の指示のもとホームでの対応もしている。	主治医や医療機関との連携を図り、早期退院ができるように対応している。入院中や退院時のカンファレンスにはホームからも参加している。家族様の希望により、医師の指示のもとホームでの対応もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化における指針・同意書を作成しており、状況を見ながら家族様に説明を行っている。重度化した場合は、家族・医師とのカンファレンスを行い今後の方針を決めている。家族・医師との連携を密に取りながら日々の支援を行っている。	重度化した場合における対応として、ターミナル・重度化の同意書を作成しており、状況の判断を行い、家族・事業所とカンファレンスし今後の方針を定めている。日頃より家族や医療機関と密に連帯をとり支援を行っている。	入居契約時に指針の説明を行っている。これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればその用意もある。容態の変化に伴い揺れ動く家族の気持ちに寄り添いながら、話し合いは何度でも重ねる事としている。事業所内での話し合いの後は医師の説明もあり、キーパーソンには家族・親族等へ伝えておく事も促している。殆どの職員に看取りの経験があり、深夜の急変であっても看護師資格を有する職員の駆け付けや、日頃の指示が活かされ不安になることはない。暮らしを共にしてきた職員には、看取りまでさせて頂くという覚悟も窺える。また、エンゼルケアを施す用意もあり、家族が希望すれば一緒に支度をする事も出来る。利用者や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所でもマニュアルを作成し勉強会を行い、緊急時の対応ができるようにしている。また、個人で判断せず速やかに看護師・管理者に連絡し指示のもとに対応している。	事業所でもマニュアルを作成しており、勉強会を行い緊急の対応が出来るように努めている。緊急の連絡網を作成・活用し、個人で判断せず速やかに管理者に連絡し、指示のもとに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し勉強会を行っている。防火訓練には地区消防団にも参加して頂き、意見指導を受けている。地区了解のもと、災害時には公民館を利用できるようになっている。	災害時のマニュアルを作成し勉強会を行っている。防火訓練には地区消防団にも参加して頂き、意見指導を受けている。地区了解のもと、災害時には公民館を利用できるようになっている。	年2回の訓練には消防署の立ち合いと、地元の消防団員や消防機器業者も参加しているため、専門知識を活かした具体的な指導が受けられる機会でもある。昼間や少し薄暗くなる時間帯に行い、夜間を想定した場合には宿直とみなした職員のみが対応を試みている。各居室の入口には介助の度合いを示す表示があり、利用者と一緒に避難を体験している。職員は通報装置や消火器の使い方を承知しており、一斉連絡網には区長の登録もある。実践的な訓練となるよう取組んでいる。様々な備えの中には消防車両が通る道の確保や、避難先の公民館で必要な物リスト等も含まれており、非常時には地域住民の協力が不可欠であることも理解している。訓練での反省や課題は速やかに対応し、全員に周知している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼時には、認知症介護の原則や行動基準を唱和、確認し適切な対応ができるように努めている。トイレ誘導や汚染時の言葉掛けなど特に気を付けている。表札や居室の名前は、本人・家族の意向に沿って対応している。	朝礼時には、認知症介護の原則や行動基準を唱和し、言葉遣いや対応に敬意が払えるように心掛けている。玄関の表札や居室入り口の名前の明記は、本人・家族の意向に沿って対応している。	日々のケアの中では羞恥心への配慮を求められる場面が多い。想いを言葉で表し難い利用者に寄り添い、例えば同性によるケアが必要か否かには、傍らにいればこそ気付く感覚を大切にしている。毎日の積み重ねは、やがて信頼という形で職員に返されている。また入居時には、これまで何と呼ばれていたか、どんな呼び名がいいかと本人や家族へ尋ね「○○ちゃん」に決めた利用者もある。昔からの呼び名は入居当初の緊張もほぐしてくれる。個人情報の取り扱いに関しては、入居時の確認と承諾により運用され、業務上の会話であっても小声で伝えるなど職員の意識は高い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を受け止め、利用者が自己決定できる環境づくりや言葉掛けに取り組んでいる。 (おやつ、飲み物、入浴、散歩など)	日常生活の中で、本人の思いや希望を受け止め、利用者が自己決定できる環境づくりや言葉掛けに取り組んでいる。 (おやつ、飲み物、入浴、散歩など)		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースで生活できるように見守り、希望に沿って支援が出来るように努めている。	利用者が自分のペースで生活できるように見守り、希望に沿って支援が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や好みを考慮し、状況にあった身だしなみやおしゃれを楽しんで頂ける様に支援している。日曜日は特に整容の日とし、爪切りや耳かきを行っている。	本人が好む服装をして頂き、起床時の整髪や髭剃りを行うよう支援している。爪切りや耳掃除などの整容に関する事は、曜日を決めて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を中心にした料理を心がけ、盛り付けや味付け、器にも気を配っている。給食委員が中心となり行事食や、本人の希望を取り入れたお誕生日のお祝い膳は、とても喜ばれている。また、野菜の下処理や食後の下膳、食器拭きなど、元気な方には職員と一緒にやっていただいている。	給食委員が中心になり行事やお誕生日に喜ばれるメニューを作成し、旬の食材を取り入れて献立作りを行っている。また、野菜の下処理や食器拭きなどが出来る方には職員と一緒にやって頂いている。	献立は、利用者に食べたいものを尋ねながら担当の職員が考えている。差し入れ等があれば予定変更や一品追加もある。家庭と同じようにキッチンで調理をしているからこそである。2つのユニットで分担もしつつ、手伝える利用者には手を借りている。コロナ禍になり職員も一緒に食事風景は自粛中だが、介助では出来るだけ自分で口へ運んでほしいとの想いで声を掛けている。利用者に合った形状での提供は言うまでもない。好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、食が細い方には高カロリー食の常備もある。また誕生日は当日に祝っており、本人のリクエスト食が用意され、おやつにはケーキや和菓子などもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の体調や医師の意見を取り入れた食事量や味付けにし、食事形態にも気を配っている。骨粗鬆症対策に牛乳を提供したり、嗜好に合わせた飲み物を提供し水分補給に努めている。水分や食事の摂取量を個人ごとに記録し、状態の把握に努めている。	個人の体調や医師の意見を取り入れた食事量や味付けにし、食事形態にも気を配っている。骨粗鬆症対策に牛乳を提供したり、嗜好に合わせた飲み物を提供し水分補給に努めている。水分や食事の摂取量を個人ごとに記録し、状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや口すすぎなど、個人の状態に合わせた対応や介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。必要時には歯科受診や往診を利用し対応している。	毎食後の歯磨きや口すすぎなど、個人の状態に合わせた対応や介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。必要時には歯科受診や往診を利用し対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を行うことで、個人に応じたトイレ誘導や対応、言葉掛けが出来ている。状態に合わせて、夜間は居室でポータブルトイレを使用して頂いている。個人の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行い、おむつの使用は最小限にするように努めている。	排泄記録を行うことで、個人に応じたトイレ誘導や対応、言葉掛けが出来ている。状態に合わせて、夜間は居室でポータブルトイレを使用して頂いている。個人の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行い、おむつの使用は最小限にするように努めている。	排泄に関して自立とみなされる利用者は約半数である。しかし任せたままではなく、さりげなく見守りをし記録も残している。日中はトイレでの排泄を主としているが、記録簿を活かした支援が功を奏し、誘導のタイミングも図れている。このことはオムツ・パット類の使用枚数減となり、費用負担の軽減へと繋がっている。また入居後に、布パンツにパット併用でも可能になった方もいてケアの効果が表れている。トイレ内の設備では、手すりはもとより両脇にひじ掛けも設置されており立ち座りを助けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便記録により医師の指示のもと、個人に合わせた緩下剤を使用している。また、水分摂取や献立に野菜や果物を取り入れ便秘予防に努めている。合わせて日々の体操や腹部マッサージも行っている。	個人の排便記録により医師の指示のもと、個人に合わせた緩下剤を使用している。また、水分摂取や献立に野菜や果物を取り入れ便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の体調や希望に合わせて入浴や清拭更衣、足浴の支援を行っている。個人に合わせた湯温でゆっくり安全に入浴して頂けるようにしている。水素風呂を取り入れ、皮膚状態の改善や心身のリラックス支援を行っている。	利用者の体調や希望に合わせて入浴や清拭更衣、足浴の支援を行っている。個人に合わせた湯温でゆっくり安全に入浴して頂けるようにしている。水素風呂を取り入れ、皮膚状態の改善や心身のリラックス支援を行っている。	入浴は毎日可能だが、2～3日置きの後半を利用する方が多い。拒む方に無理強いはいはしないが、長く続けば職員のテクニックも活かし誘導している。季節を感じてもらえるよう柚子湯を提供したり、ひとりずつゆつりと湯船に浸っていると想いを話してくれる利用者もある。入浴しない日も清拭や下着肌着の交換を行い清潔保持に努めている。浴室には暖房設備があり、脱衣場のファンヒーターと併用することで冬場のヒートショック対策としている。衣服の脱ぎ着には安定感のある椅子が用意しており、出来ることは本人に任せ見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温湿度計を確認し、個人に合わせた寝具の調整や空調管理を行い安眠の支援をしている。好きな時に居室での休息やテレビを楽しんで頂いている。	各居室に室温計を設置しており、個人に合わせた空調管理を行っている。寝具類も季節ごとに調整し、居室でのテレビや昼寝など自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬内容をいつでも確認できるようにしている。服薬は担当したスタッフの名前を管理日誌に記録し、責任をもって確実にやっている。状態の変化を記録し、医療機関との連携を図り対応をしている。	個人の服薬内容は常に確認できるようにしている。内服のチェックも管理日誌に記名する事で誤薬が無いように注意を払っている。薬の変更時は、受診ノートやケース記録に記載し、職員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでやってこられた事や今も出来る事、楽しまれていた趣味など日頃の会話に取り入れている。食後の食器拭きなどは職員と一緒にやっている。ホーム園庭の散歩では、季節ごとの草花や景色を楽しんでいる。また、桜や紅葉見学などドライブの支援を行っている。	これまでやってこられた事や今も出来る事、楽しまれていた趣味など日頃の会話に取り入れている。食後の食器拭きなどは職員と一緒にやっている。ホーム園庭の散歩では、季節ごとの草花や景色を楽しんでいる。また、桜や紅葉見学などドライブの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や体調を見ながら、季節ごとの花見やドライブを楽しんで頂いている。家族との外出や外食の支援もしているが、現在は感染症対策の為困難な状況である。	利用者の希望や体調を見ながら、季節ごとの花見やドライブを楽しんで頂いている。家族との外出や外食の支援もしているが、現在は感染症対策の為困難な状況である。	天気の良い日には外庭の散歩やひなたぼっこが見受けられる。敷地内には砂利を敷いてあるが、車椅子でも楽に通れるようコンクリート道が造られ、そこを辿って歩けば散歩コースにもなっている。コロナ禍での外出は目的地の人出を見て降車を決めるドライブで、車窓からのみとなることもあるが、利用者の気分転換や五感の刺激には役立っている。お金を所持している方と受診の帰りに買物をすることもある。感染症対策に留意しつつ、少しずつ外へも向かっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、家族了解のもと少額を所持されている方もある。物品の購入を希望される時や必要時には、家族に連絡し対応している。	本人の希望により、家族了解のもと少額を所持されている方もある。物品の購入を希望される時や必要時には、家族に連絡し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力のもと、電話をかける支援を行っている。家族や知人からの電話には、ゆっくり会話を楽しんで頂けるように支援している。	家族の協力のもと電話の要望がある時は、掛ける支援を行い、落ち着いた雰囲気の中でお話しできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や空調に気を配り、清潔で明るい空間づくりに努め、心地よく過ごして頂ける様に努めている。居室内は特に利用者の動きに合わせた家具の配置を行い、整理整頓・清掃に努めている。玄関やホーム内には季節感のある飾りつけを行っている。また、環境整備委員の月1回のチェックにより清潔な環境の維持が出来ている。	心地良く生活して頂く為に、整理・整頓を心掛け毎日の掃除を行っている。玄関や廊下には、季節を感じられる飾りつけや花を置いている。環境整備委員のチェックによりホーム内の安全や清潔な環境の維持に努めている。	上空からはL字型に見える建物である。中央の角部分に玄関があり、そこから各ユニットが伸びている。利用者の動線上に行動を妨げる物はない。長い廊下を歩行練習に使う方もある。日中の殆どをリビングで過ごす方も多く、椅子やソファの配置には工夫もある。夏場の日差し対策には、内はレースカーテンを利用し、外は可動式のひさしを延ばして対応している。長閑な田園風景が広がる場所で、車の騒音は全くない。委員会の活躍や5Sの浸透もあり、浴室やトイレはきれいに掃除され、気になる臭気もない。事業所のモットーには消毒液など臭いのない介護も挙げられている。時節柄、時間を決めた換気や手を触れる箇所の消毒はこまめに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テレビや食事・会話を楽しんで頂ける様にソファを配置している。その時の気分により好きな場所で過ごされている。利用者の動きの安全が確保できるように気を付けている。	リビングには、気の合う利用者様同士が会話を楽しんで頂ける様にテーブル席を配置し、テレビやソファを置き、ゆっくりくつろげる空間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出のある家具や馴染みのものを使って頂き、安心して落ち着いて過ごして頂ける様にしている。お誕生日のお祝いの写真や家族様との写真を飾るなどして、心穏やかに過ごして頂ける様に努めている。利用者の動きに合わせた家具の配置を行い安全にも努めている。	馴染みのある家具等を持って来て頂き、家族様の写真を貼るなど心地良く生活を送れるように工夫をしている。また、利用者の身体の状態に応じて家具などの配置を行い安全に努めている。	火気等の危険物や冷蔵庫以外であれば持ち込む品物の制限はしていない。使い慣れた物をと伝えている。居室にはフローリングと畳の2タイプがあり、それぞれに収納用押入れがある。シーズンオフの衣類や寝具の保管、また日頃の整理整頓にも役立っている。季節の変わり目には職員が衣替えをし、寝具干しは日常的な光景である。家具の配置や飾り付けは本人と話し合いながら行い、居心地よく過ごしてもらえるよう支援している。家族が希望すれば居室での宿泊も可能であり、ターミナルケアの時期に利用した例もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のネームプレートや目印により、利用者がすぐにわかるようにしている。トイレにも張り紙をしてわかりやすい様にしている。ホーム内には廊下やトイレ、浴室など手すりを設置し、安全な歩行や使用ができるようにしている。	自分の居室がすぐ分かるように、ネームプレートを付けている。利用者の身体状況で手すりの場所を決め配置している。トイレや浴室には分かりやすいように目印をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		さわ棟	ゆい棟	
↓該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○		1. ほぼ全ての利用者の
			○	2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○		1. 毎日ある
			○	2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○		1. ほぼ全ての利用者が
		2022/11/9	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
		○	○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		さわ棟	ゆい棟	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○		1. ほぼ全ての利用者が
			○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)			1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
		○	○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○		1. 大いに増えている
			○	2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)			1. ほぼ全ての職員が
		○	○	2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない